北陸石仏の会々報

第63号
令和3年4月15日発行
編集と発行
北陸石仏の会
（日本石仏協会北陸支部）
代表　平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田1770　尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
（年会費 3000 円）
ホームページ
http://odatakeo.wp.xdomain.jp/

・井口神社の石造本殿
・飛天が彫られた石仏
・キダキの金毘羅石像
・斎藤善夫氏著作目録
・第61回例会案内

井口神社の石造本殿

滝本　やすし

福井県あわら市の中番下番入会地に、旧郷社春日神社が建てられている。祭神は武甕槌命、経津主命、天児屋根命、比咩命である。寛弘八年（一〇一一）十月に奈良春日大社を勧請した。このあたりは奈良興福寺の荘園で、河口庄十郷の中心の本荘郷であった。本荘春日神社は、各郷の春日神社十社の総鎮守の父神である。御神体は、鎌倉時代末期の木造中品下生阿弥陀如来立像を中尊とし平安時代の木造清涼寺式薬師如来立像も祀られている。元禄十二年（一六九九）に建てられた本殿は県の文化財に指定されている。

昭和四十四年に境内社神明神社近くの土中から笏谷石製の浮彫り十二神将が発見された。しかし十二体のうちの一体が見つかっておらず、十一体のみが現存している。

春日神社拝殿の右手に、笏谷石製の大きな石祠が建てられている。式内社井口神社の本殿で、祭神は男大迹命（即位前の継体天皇）である。井口神社の創祀時期は不明であるが、春日神社よりも古く、春日神社は井口神社の境内に建てられたのである。井口神社は水利の便を願って建てられたと伝えられることから、当初は御井神（木俣神）を祭神としていたのではないかと考えられている。「井口」とはせき止めた水の出口のことであり、本来の祭神が御井神であったことも納得できる。

井口神社の本殿は総高約295 cmで、内寸は幅95 cm、高さ75 cm、奥行き55 cmほどである。正面の扉に日月の窓が開けられ、左側面に「享保七壬寅年（一七二二）十一月廿一■／破損再興／■番村／■■」と刻まれており、「大正十五年（一九二六）四月下旬修築／社務所」と追刻されている。奥壁の内面には、向かって左に不動明王立像、右に毘沙門天立像が浮彫りされている。不動明王は月窓を、毘沙門天は日窓を向いている。丸彫りに近い厚肉彫りで、石祠内のため保存状態は良好である。

飛天が彫られた石仏

松井 兵英

仏教美術の中でも軽やかに舞う飛天は華だと思います。ずっと以前のこと、テレビの『日曜美術館』で「騎馬民族説」の考古学者・江上波夫氏（1906～2002）が「法隆寺金堂内陣壁画の飛天はシルクロードの敦煌あたりから飛んできたのでしょうね…。」と語っておられました。

身近な富山市内でも、飛天が彫られた石仏に出会うことができます。

①富山市（旧大沢野町）坂本、木造堂内、安政四年

尾田武雄氏の『とやまの石仏たち』に載せられ、会報六十号でも「疫病退散」として紹介されています。近年まで茅葺のお堂でしたが瓦葺に建て替えられました。布尻村の石工（浅吉）の作品で一石阿弥陀三尊像の上部左右に飛天が彫られています。飛天の様子は美しく、彩色もほどよく、名作だと思います。ガラス入の格子戸は施錠されています。

②富山市（旧大沢野町）大野、「舘ファーム」東の小堂、明治廿十年

彩色された一石阿弥陀三尊像で、石工・田近勝之助。少し重そうです。

③富山市（旧大山町）東黒牧バス停付近、コンクリート堂内、安政二年

構図は①と類似しますが作風は少し異なるようです。向かって左側の像は翼を大きく広げており「迦陵頻伽」かもしれません。彫りは美しいのですが彩色は適切ではないようです。鉄格子があって見づらいです。

④富山市月岡町二丁目　月岡駅すぐ西、曹洞宗仏光寺門前、明治廿七年

向かって左に彩色されていない大日如来石像があり、笠石に飛天が彫られています。重厚で見事な彫刻なのですが、こちらも少し重そうです。

飛天が彫られた石造物は、捜せば他にも、もっとあることでしょう。

＊会報六十二号で紹介した旧大山町日尾萬泉寺跡西国三十三所観音写しの石工は、古川知明先生から『安政六年新川郡諸商売取調理書上申帳』に記載の「善名村・長右衛門」とお教え頂きましたので訂正します。

→①坂本の阿弥陀三尊像

尾田武雄氏『とやまの石仏たち』より

↗①坂本の飛天像

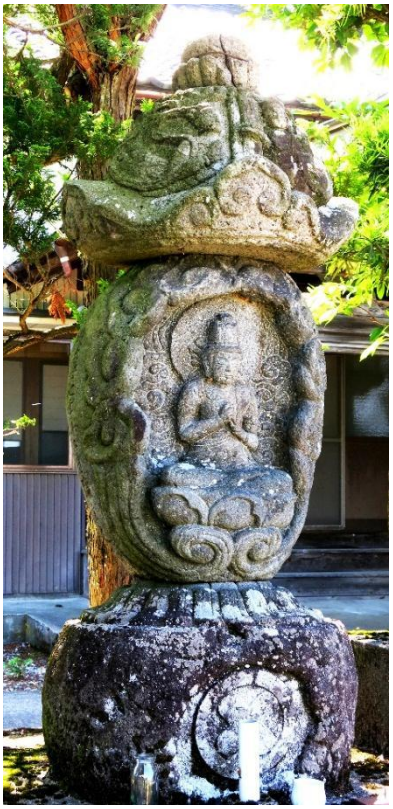
↖

←②大野の阿弥陀三尊像と飛天像←

→③東黒牧の阿弥陀三尊像

↗③東黒牧の飛天像

↖③東黒牧の迦陵頻伽像？



←④月岡　仏光寺門前　大日如来像の笠部分

④仏光寺の飛天像↓↘

旧大山町上馬ノ瀬キダキの金毘羅石像

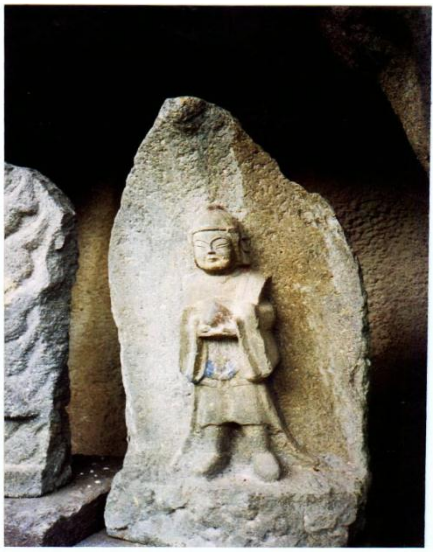
平井　一雄

平成十二年十一月十二日第23回北陸石仏の会例会は旧大山町日尾・石淵・上馬ノ瀬を調査地として開催された。その時のレジメを私が作ったがその中に上馬ノ瀬の金毘羅石像を紹介しておいた。当日は時間がなくて現地を案内できなかったのでこの紙面をかりて紹介する。石淵の橋を渡って左手奥に阿弥陀如来を刻んだ磨崖石仏がある。天保十一年の銘があり旧道がここを通っていたことのなごりを語っている。『大山町の石仏』第1集には尊名「地蔵」とし載せられている。また由来として「長棟鉱山の関所跡と伝えられる」と記されているが、前田先生は鉱山関所跡と証明できる資料がないと語っておられる。

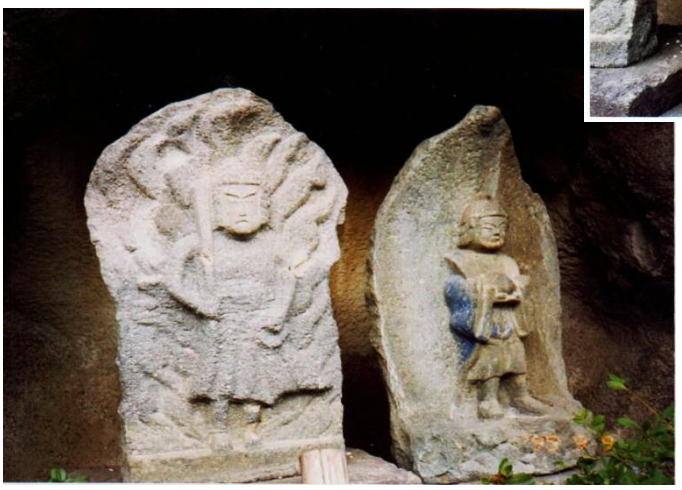
ここよりさらに上流に向かって進むと自動車道路の上を岩がオーバーハングしている難所、通称（キダキ）が見えてくる。このキダキの手前の山側壁面はコンクリート吹きつけになっている。ここの一部を掘りくぼめ石仏２体を祀ってあるのに気づく。

左側の石仏は宝剣と索を持つ火炎背光の不動明王だと一見してわかるが右側の石仏はわからない。台座に石淵村山崎甚七と刻まれているのが唯一の情報である。昭和五十八年六月十二日石淵村を採訪したとき畑仕事をしておら丸た花木とみえさんに色々お話を聞くことができた。日露戦争に従軍された山崎甚七さんがこの下方を通っていた旧道で怪我をした時に、難所の魔よけに祀られた金毘羅さんだということをお聞きすることができた。ここは上馬ノ瀬が正式な地名であるが石淵の人が地主なので石淵のキダキということになっているらしい。私はこの長棟街道の上流にある奥ノ山発電所に仕事に行くことが多かったので、この石仏に気づき写真を最っておいたのだが、その頃は胸に抱く宝珠の赤い彩色と羽織の青い彩色が残っていて桃太郎の像容そっくりであった。

金毘羅信仰の石造物はふつうは文字碑が多く武人像や天狗像が県内では数体見ることができるが、この桃太郎のような像容には初めて出会った。桃太郎の武勇にあやかるような金毘羅像を山崎さんが石工さんに依頼されて奉納されたのではないかと考えている。この場所の下方、通称「しょんべん滝」の滝口にある不動明王磨崖仏を石淵出身の石森さんに案内してもらった。日夜、長棟街道の安全を祈願しておられる金毘羅さん、不動さんに心の中で手を逢わせながら通っている。



金毘羅石像



上馬ノ瀬キダキの不動明王と金毘羅石像

斎藤善夫氏著作目録

尾田武雄作成

北陸石仏の会の古くからの会員で、梵鐘や古書籍の研究で知られた斎藤善夫さんが平成二十五年六月十二日に逝去された。お生まれが大正九年三月生まれなので、九十三歳でお亡くなりになったことになる。平成十年に『富山・石川　梵鐘考』、平成十三年に『続富山・石川　梵鐘考』を北陸石仏の会から発刊された。その後多くの著書や論文を発表されたが散逸を恐れ、ここに先生の業績を称え、著作目録を発表する。

斉藤善夫氏著作目録

著書

1『安居年表（稿）』　斉藤善夫　昭和63年
2『加賀藩末期の侍帳』　斉藤善夫　昭和64年
3『高参寺和漢書分類目録』　乳子山高参寺　平成6年10月
4『高参寺文書目録　一』　乳子山高参寺　平成7年
5『高参寺文書目録　二』　乳子山高参寺　平成9年8月
6『高参寺文書目録　三』　乳子山高参寺　平成6年10月
7『高参寺和漢書分類目録』　斉藤善夫　平成元年1月
8『安居歳々』　斉藤善夫　平成12年7月
9『文書でたどる安居のあゆみ』　北陸石仏の会　平成12年9月
10『富山・石川梵鐘考』　北陸石仏の会　平成13年9月
11『続富山・石川梵鐘考』　斉藤善夫　平成10年9月
12『福野村鋳物師考』　斉藤善夫・北沢寛共編　平成11年
13『瑞龍寺黄檗版大蔵経現存目録』
14『［複合論考加賀大乗寺蔵『支那禅刹図式』と攝津佛眼寺鐘』　斉藤善夫・大熊恒靖　平成15年10月
15『石碑の備忘録―南砺市安居地区の石碑と榜示石―附「公共標識」』　斉藤善夫　平成17年10月

論文

1「安居地区の北海道移住」　『砺波地方史研究』３号　昭和42年12月
2「安居の絵馬」　『富山史壇』３６号　昭和42年2月
3「安居寺の鐘」　『富山史壇』９０号　昭和61年2月
4「立山にあった鐘と地蔵尊」　『富山史壇』９４号　昭和61年2月
5「芭蕉の安居寺参詣伝説に就いて」　『富山史壇』９８号　平成元年1月
6「鐘影流転―越中にかかわりある鐘の移動と現状―」　『富山史壇』１００・１０１号　平成元年12月
7「近世越中立山諸堂の鐘」　『富山史壇』１０４号　平成3年3月
8「金属類回収令と富山県の梵鐘始末（上）」　『富山史壇』１０８号　平成4年7月
9「金属類回収令と富山県の梵鐘始末（下）」　『富山史壇』１０９号　平成4年11月
10「勝興寺の古国府へ移転の時期―梵鐘に寄拠して―」　『富山史壇』１１６号　平成7年3月
11「鐘影流転（二）―越中にかかわりある鐘の移動と現状―」　『富山史壇』１１９号　平成8年3月
12「鐘影流転（三）―越中にかかわりある鐘の移動と現状―」　『富山史壇』１２０号　平成8年7月
13「鐘影流転（四）」　『富山史壇』１２１号　平成8年11月
14「鐘影流転（五）」　『富山史壇』１２３号　平成9年2月
15「鐘影流転（六）」　『富山史壇』１２３号　平成9年7月
16「鐘影流転（七）」　『富山史壇』１２４号　平成9年11月
17「越中古鐘の音」　『富山史壇』１３３号　平成12年12月
18「越中の鰐口」　『富山史壇』１３４号　平成13年3月
19「石上北天と土原恵学」　『富山史壇』１３９号　平成15年2月
20「瑞龍寺蔵旧安居寺鐘（一）」　『史迹と美術』６３０号　平成8年1月
21「瑞龍寺蔵旧安居寺鐘（二）」　『史迹と美術』６３３号　平成8年3月
22「法華寺鰐口（旧長福寺鰐口）（資料）」　『史迹と美術』６４０号　平成5年12月
23「新知見の古活字版『無量寿経論注記』五巻について　『史迹と美術』７０４号　平成13年5月
24「『支那禅刹図式』の中の何山寺鐘」　『史迹と美術』７３５号　平成15年6月
25「能登から還った梵鐘」　『北陸石仏の会研究紀要』２号　平成10年5月
26「彫られなかった碑誌―富田翁遺徳碑」　『北陸石仏の会研究紀要』５号　平成14年10月
27「峠の石碑―通崎嶇記念碑」　『北陸石仏の会研究紀要』６号　平成15年9月
28「宮崎彦九郎儀一（寒雉）の梵鐘」　『石川郷土史学会々誌』２６号　平成5年12月
29「加賀鋳物師の名乗りについて」　『石川郷土史学会々誌』２９号　平成8年12月
30「金沢城時鐘の変遷」　『石川郷土史学会々誌』３０号　平成9年12月
31「中世能登中居鋳物師の梵鐘」　『石川郷土史学会々誌』３２号　平成11年12月
32「富山・石川の近代鐘」　『石川郷土史学会々誌』３３号　平成12年12月
33「金沢市内の寒雉鐘と近代鐘の音」　『石川郷土史学会々誌』３４号　平成13年12月
34「越登賀における光隆寺知空撰銘の梵鐘」　『石川郷土史学会々誌』３７号　平成16年12月
35「越中の無紀年銘鐘について」　『大境』１４号　平成4年3月
36「伊勢泰運寺・能登永光寺の法華経刻字鐘」　『梵鐘』３号　平成7年10月
37「元禄以前（１７世紀）越中・能登・加賀の梵鐘年表稿」　『梵鐘』３号　平成7年10月
38「高岡山瑞龍寺の模造支那鐘」　『梵鐘』５号　平成8年10月
39「高岡山瑞龍寺に見る黄檗の影響」　『黄檗文華』１１６号　平成8年10月
40「隠元隆撰銘の梵鐘」　『黄檗文華』１１９号　平成12年5月
41「隠元・黄檗に係る梵鐘の形状と文様について」　『黄檗文華』１２３号　平成16年7月
42「加賀藩曹洞寺院に於ける住職世代除外と黄檗宗の関係について」　不明（東京黄檗研究所第10回入選論文）　平成16年10月
43「『浄土真宗経典志』に拾う越中学僧の著作」　『我聞如是』８号　平成15年

北陸石仏の会 第61回例会

―高岡市北部の石仏めぐり―

令和3年5月30日(日)

参 加 費：６０００円（バス・資料代）
集合場所：①高岡駅北口……７時４０分
　　②伏木駅……８時１０分
申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。
　　住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所
　　集合場所および時間が不都合な方はご連絡下さい。
申 込 先：〒939-1315　砺波市太田 1770　尾田武雄方　北陸石仏の会事務局
締め切り：令和３年５月１４日(金)
案　　内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定

◎伏木本町　浄土宗伏木教会／光導名号塔
◎伏木一宮　越中国分寺跡／四国八十八所霊場石仏、半跏地蔵、弘法大師千回御忌報恩塔
◎伏木東一宮　路傍／「水神」
◎伏木古国府　路傍／馬頭観音
◎伏木古府　八幡社／狛犬
◎伏木古府　曹洞宗梅林寺／准胝観音、双体地蔵、半跏地蔵
◎伏木古府　路傍／聖徳太子二歳像
◎伏木古府　曹洞宗正法寺／四国八十八所霊場石仏
◎二上　高野山真言宗養老寺慈尊院地蔵堂／聖徳太子二歳像、高岡新西国第30番千手観音
◎柴野　守善寺跡観音堂／西国第 16 番十一面千手観音
◎本郷１丁目　路傍／那伽犀那尊者
◎金屋町　曹洞宗宗泉寺／韋駄天、青面金剛、高岡新西国第 15 番十一面観音
◎大町　真言宗醍醐派聖久寺／高岡新西国番外花山院
◎利屋町　曹洞宗龍雲寺／高岡新西国第１番如意輪観音

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。

令和３年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は３０００円です。